

人間科学部 心理学科

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 80 単位以上、関連科目から 6 単位以上、共通科目から 38 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（心理学）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) 人間の生涯にわたる成長や特質、他者との関係について理解している。
- (2) 心理学の基礎的な手法である心理調査や分析技法に関する専門的知識と技能を習得している。
- (3) 心理学の基礎的知識を身に付けている。
- (4) 対人関係の支援、円滑な人間関係の構築・維持、効果的な課題遂行のためのコミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) 心理学的な視点から、グローバルな事象について考察する力を身に付けている。
- (6) 科学・文化・社会の大系の基本的意義を理解している。
- (7) 人間の心理過程や行動に関わるデータ分析技能やカウンセリング技能を習得し、現実場面で実践できる。
- (8) 実社会において、他者を受容し共感する能力があり、倫理的な判断力を持って現場の責任を担うことができる。
- (9) 人の行動や心理に関する現象の中から、解決すべき課題を自ら発見することができ、それらに対する適切な仮説を生成することができる。
- (10) データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる。
- (11) 課題解決を行うために、適切な目的を設定し、目的を達成するために、戦略的に主体的に行動できる。
- (12) 知識と外国語を利用して実践できる。

3. 卒業後の進路

心理学の学びを活かした卸・小売、金融、製造業、建設業、サービス業等幅広い業界や公務員としての就職、大学院進学（臨床心理士の資格取得）等が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

(1) 心理学科の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。

①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。

②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。

③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。

2. 特色

(1) 基礎から専門への移行するバランスのとれたカリキュラム構成により、演習・論文に関する科目、社会調査や分析技法に関する専門的知識科目、専門科目のそれぞれが、1年次より順次基礎から開講され、学年があがるに従って、より高度な内容が学べるように、カリキュラムが組まれている。

(2) 幅広くバランスのとれたカリキュラム構成により、キリスト教の全人教育を基礎にして、心理学を中心に自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ科学、等を幅広く学ぶ。

(3) グローバルな視点を取り入れたカリキュラム構成により、文化の違いによる心理学的知見の違いや普遍的な人間性について学ぶことができる。

(4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔演習・卒業論文に関する科目〕

1年の演習では、大学で学ぶための基礎的スキルを獲得する。3・4年の演習では、履修した様々な心理学の科目から得た知識やスキルを用いて、研究を実施し、卒業研究としてまとめる力を獲得する。

〔研究法に関する科目〕

人間の心理や行動を科学的に分析するためのデータ収集、分析法についての知識を獲得する。

〔実験・実習に関する科目〕

調査、観察、実験、面接を用いて、人間の心理や行動を分析するデータ収集力やデータ分析力を獲得する。

〔基礎専門に関する科目〕

心理学の多様な領域を概観し、心理学という学問の概念を獲得する。

〔認知領域科目〕

人間が、日々周りの世界を見たり聞いたり、それをもとに感じたり記憶したり考えたりするしくみを理解する知識を獲得する。

〔教育・発達領域科目〕

人の精神や知能の発達や形成のプロセス、教育過程の様々な現象を理解する知識を獲得

する。

〔社会・産業領域科目〕

社会や産業場面における人の行動を、他者との関係や置かれた状況との関わりから検討できる知識を獲得する。

〔臨床領域科目〕

心理的な悩みや問題を抱える人を理解・援助する理論や技法（カウンセリング、心理テスト）についての知識を獲得する。

〔文化・環境領域科目〕

文化や環境が人間のものの見方や考え方、行動に与える影響について理解する知識を獲得する。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

心理学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 自分を取りまく諸世界及び人間について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識を有する者。
- (3) 将来、心理の知識を活かして社会に貢献する事に意欲を持ち、自らの課題を見いだせる者。
- (4) 対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力を身に付けることに意欲的な者。

2. 選抜方法

心理学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入試センター試験から必ず数学または理科を採用することなど、心理学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、公募制推薦入試、併設高校からの推薦入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、公募制推薦入試では、数学科目の履修や英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力及び語学力を有する者を対象とする。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志

望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。